

各位

2023年8月10日
室蘭文化連盟

「室ガス文化センター大ホール」の存続を希望する署名について

室蘭市は将来的に、人口減・少子高齢化に向かうであろう事、従って財政難に陥るであろう事は理解できないわけではありません。

しかし1972年、室蘭開港100年、市制施行50年に制定された室蘭市民憲章には次のように明記されております。

「子どもの夢をはぐくみ、あたたかい心のかようまちをつくります。」

「未来を開く希望のまちをつくります。」

「文化のかおりあふれるまちをつくります。」

私達室蘭文化連盟加盟者も、この市民憲章を念頭におき、今迄文化事業に取り組んで参りました。今後もそのように進む覚悟でおります。

ところが、文化の殿堂ともいえる「室ガス文化センター」は、2026年度末に財政難を理由に廃止と決定。室ガス文化センターは1964年建立。一般的に公共施設の耐用年数は70年と言われており、これから言えば2034年迄使用可能になる計算です。あと11年は使用可能となります。

私達は「室ガス文化センター」の新築を望んでいるわけではありません。更にあと11年の使用を無理に望んでいるのでもありません。3年後に廃止という結論に納得がいかないのです。西胆振最大の規模を誇る、この大ホールを廃止するなど、どう考えても勿体なさ過ぎます。大ホールの解体には3億円の経費がかかるとか。その経費を今後の大ホールの維持費に向けるという方法もありましよう。せめて使用可能な年月、使わせていただきたいというのが本音であります。

室蘭市民会館があるから、文化センターの大ホールは不要との考えがあると聞いております。それは全く違います。

文化センター大ホールは、邦楽舞踊、バレエ、演劇、オペラ、ミュージカル、大規模な吹奏楽、交響楽等の公演に対応できるような設備が完備されております。緞帳、袖幕、一文字幕、つり込み装置、花道、オケピット、檜舞台等、他にはない誇れる設備、客席数も1307と群を抜く集客可能なホールであります。

過去に開催してきた公演には、室蘭市や近郊市町はじめ、遠隔都市からの観客もかなり見られます。それらの人々の入場料、宿泊費や飲食費等、室蘭市に及ぼ

す経済効果も見逃すことはできません。市の活性化につながる一要因でもあります。大ホールが無くなれば、上記のような催事はいっさいできなくなります。

室蘭文化は衰退の一途を辿ります。文化の育たない街に魅力はありません。人口減に拍車がかかるでしょう。

一方室蘭市民会館は、音楽ホールとして20年前に建てられた物です。音楽ホールとしては最高です。これに手を加え、文化センター大ホールの機能を備えることは不可能です。舞台の拡大や客席数の増加は、面積上、不可能と思われます。手を加えることによる弊害の方が心配されます。室蘭市民会館は現在そのまま使用すべきと思われます。

以上のような観点から「室ガス文化センター大ホール」は廃止ではなく、使用可能な限り使わせていただきたいという趣旨で署名をお願いしたいのです。どうぞ宜しくお願いいたします。

以 上